

035 重い皮膚病(規定の病)を患っている人をいやす

ルカによる福音書 5 : 12~16、マタイ 8 : 1~4、マルコ 1 : 40~45

12 イエスがある町におられたとき、そこに、全身重い皮膚病 (→ギリシア語で「レプラ」)にかかった人がいた。

この人はイエスを見てひれ伏し (→平伏し)、「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と願った。

→イエスがある町におられたとき、そこに、全身規定の病を患っている人がいた。イエスを見てひれ伏し、「主よ、お望みならば、私を清くすることがおできになります」と願った (聖書協会共同訳)。

→重い皮膚病：多種多様の皮膚病の総称を指す。聖書によっては、「らい (ハンセン氏) 病」など、偏見と思われる表記がある。当時のパレスチナには、この病気はなかったため、慢性的な皮膚病と考えられる。上記のように、聖書協会共同訳では、「規定の病」(=レビ記に規定されている病気)という表記になっている。また、新改訳聖書では、原文のヘブライ語「ツアラアト」で表記している。当時のユダヤ人社会では、重い皮膚病に罹患した時は、病気が治ったことを確認してもらうために、沐浴をして、祭司による清めの儀式(犠牲の小羊、オリーブ油を混ぜた小麦粉を献上)を経なければならなかった(レビ記 13、14 章)。

13 イエスが手を差し伸べてその人に触れ、「**よろしい。清くなれ**」と言われると、たちまち重い皮膚病は去った。

14 イエスは(群衆が、奇跡だけにとらわれ過ぎないように、またメッセージが正しく伝わり理解されるように) **厳しくお命じになった。「だれにも話してはいけない。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたとおりに清めの献げ物** (→犠牲の小羊、オリーブ油を混ぜた小麦粉) **をし、人々に証明しなさい。」**

15 しかし、イエスのうわさはますます広まったので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気をいやしていただいたりするために、集まって来た。

16 だが、イエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。

→私たち現代人だけでなく、イエスもその弟子たちも忙しい時間を過ごしていました。そんな中、イエスや弟子たちは、人里離れた所 (寂しい所/a solitary place/a remote place/a quiet place/lonely places)で休息を取られ、祈られた様子などが聖書の随所に出てきます。

→だが、イエスは寂しい所に退いて祈っておられた (聖書協会共同訳)。

→聖書協会共同訳では、下記のように記されている。

①人里離れた所：マタイによる福音書 15 : 33、マルコによる福音書 8 : 4

②寂しい所：マタイによる福音書 15 : 33、マルコによる福音書 8 : 4 以外の聖句